

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ

HULFT 事業部

HULFT Series 製品における Java の脆弱性 (CVE-2017-10110 等) に対する報告

HULFT Series 製品における Java の脆弱性 (CVE-2017-10110 等) に対する報告をご案内いたします。

- 記 -

1. 脆弱性の内容

Java において、脆弱性が公表されました (CVE-2017-10110 等)。攻撃者に悪用されると、任意のコード (命令) が実行され、コンピュータを制御される可能性があります。

< Java の脆弱性に関する情報 >

▼Oracle Java の脆弱性対策について (CVE-2017-10110 等)

<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/20170719-jre.html>

▼2017年7月 Oracle Java SE のクリティカルパッチアップデートに関する注意喚起

<https://www.jpCERT.or.jp/at/2017/at170029.html>

2. 調査状況

上記脆弱性について HULFT Series 製品における影響をご案内いたします。

<HULFT Series 製品 調査状況 - 2017年7月26日 9:00時点>

製品名	調査状況
HULFT	影響ありません。
HULFT BB	影響ありません。
HULFT8 Script Option	<p>下記5点の脆弱性の影響があります。</p> <p>CVE-2017-10115, CVE-2017-10118, CVE-2017-10176, CVE-2017-10135, CVE-2017-10198</p> <p>HULFT8 Script Option は製品同梱の Java を使用するため、お客様での update 適用や外部 Java の使用は動作保証しておりません。お客様にて Java の update 適用は実施しないでください。今後のリリースにて修正予定です。リリース時期は未定です。決定次第、情報を更新いたします。</p>
HULFT IoT	<p>下記7点の脆弱性の影響があります。</p> <p>CVE-2017-10108, CVE-2017-10115, CVE-2017-10116, CVE-2017-10118, CVE-2017-10176, CVE-2017-10135, CVE-2017-10198</p> <p>Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに</p>

	対する、最新 update を適用してください。
HULFT-HUB	影響ありません。
HULFT-DataMagic (Ver. 1, 2) DataMagic (Ver. 3)	影響ありません。
HULFT クラウド (Ver. 1) HULFT-WebFT (Ver. 2) HULFT-WebFileTransfer (Ver. 3)	下記 7 点の脆弱性の影響があります。 CVE-2017-10108, CVE-2017-10115, CVE-2017-10116, CVE-2017-10118, CVE-2017-10176, CVE-2017-10135, CVE-2017-10198 Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに 対する、最新 update を適用してください。
HULFT-WebConnect	HULFT-WebConnect Agent/CLI において、下記 7 点の脆弱性の 影響があります。 CVE-2017-10108, CVE-2017-10115, CVE-2017-10116, CVE-2017-10118, CVE-2017-10176, CVE-2017-10135, CVE-2017-10198 Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに 対する、最新 update を適用してください。
HDC-EDI Suite	<HDC-EDI Base> クライアントおよびサーバサイドにおいて、Java applet を 使用した画面 (JOB 定義、detradeII アプレット版) に対して 下記 26 点の脆弱性の影響があります。 CVE-2017-10053, CVE-2017-10067, CVE-2017-10074, CVE-2017-10078, CVE-2017-10081, CVE-2017-10086, CVE-2017-10087, CVE-2017-10089, CVE-2017-10090, CVE-2017-10096, CVE-2017-10101, CVE-2017-10105, CVE-2017-10107, CVE-2017-10108, CVE-2017-10109, CVE-2017-10110, CVE-2017-10111, CVE-2017-10114, CVE-2017-10115, CVE-2017-10116, CVE-2017-10118, CVE-2017-10135, CVE-2017-10176, CVE-2017-10193, CVE-2017-10198, CVE-2017-10243 Oracle Java をご利用のお客様は、クライアントおよび サーバサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。 ※Oracle Java アップデート時の注意点について 2017 年 4 月 28 日の「 HULFT Series 製品における Java の脆弱性 (CVE-2017-3512) に対する報告 」にて、Java8 Update131 での仕様 変更 (MD5 署名付き JAR ファイルの 署名検証では JAR を署名されて いないものと見なす) に対応するパッチを案内しております。まだ パッチを適用されていない場合は、上記報告をご確認のうえ、パッチ の適用をご検討ください。 <HDC-EDI Manager> 下記 7 点の脆弱性の影響があります。

	<p>CVE-2017-10108, CVE-2017-10115, CVE-2017-10116, CVE-2017-10118, CVE-2017-10176, CVE-2017-10135, CVE-2017-10198</p> <p>Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。</p>
iDIVO	影響ありません。
SIGNALert	影響ありません。

【改訂履歴】

2017年7月27日	初版作成
------------	------

以上